

あの頃は楽しかったな

南薩教育事務所長 下假屋 誠

小学校の頃の私の夏休み。
午前十時までは家でじっと我慢していたが、十時を過ぎれば外に飛び出し、近所の異年齢の集団で野球や自転車遊びに耽っていた。そして、もう一つの楽しみが甲子園だった。

甲子園が始まると朝からずっとテレビで高校野球を見ていた。(夕方からはラジオでプロ野球を聞いていたので、頭の中は「野球漬け」である。)解説者のおかげで、野球に関する知識は増えた。それと同時に、出場校の都道府県名や都市名のみならず、その地の名産や特徴、産業や自然などを覚えていった。また、高校野球やプロ野球の結果や寸評を見るのが楽しみで、毎朝、新聞が配達されるのを待ち構え、誰より先に読んだ。漢字の読み書きや言葉の意味を知り、先にも楽しかった。いろいろな知識が増えていく喜びを実感できた。確率や割合の計算などは、授業で教わる前からやっていた。勝率、打率、防御率などの意味を知り、それを駆使することは、野球を楽しむために不可欠だったからだ。(私の野球の腕前はいつこうに上達しなかったが。)

好きなことをとおして学ぶことは楽しい。私は夏休みを満喫していた。

今年も夏休みがやってくる。子供たちは何をしておごすのだろうか。やりたいことは決まっているのだろうか。そして、教師はどんなメッセージを子供たちに伝え、家庭に返すのだろうか。

健康と安全には十分気をつけながら、遊びも、部活も、勉強も、自分が好きなことを思い切りやってみてほしい。そして、将来、つぶやいてほしい。

「あの頃は楽しかったな。」

～交通事故 0, 交通違反 0に向けて～

車を運転する一人一人が、運転における危険要因を再認識し、注意力不足などによる交通事故、交通違反防止に努めましょう。

① 「面倒」という意識

安全運転の「手抜き・省略」につながります。

② 「油断」の気持ち

通り慣れた道や前車に追従する漫然運転は、安全運転を怠る原因となります。

③ 「急ぎ」の心理

時間に余裕を持って出発しないと、急ぐあまり安全運転が疎かになります。

④ 「注意」の偏り

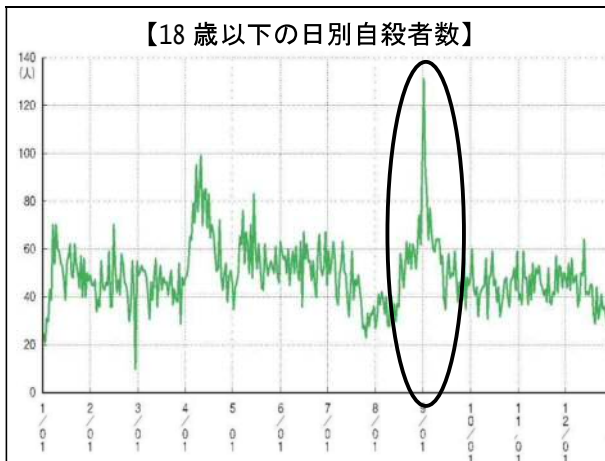
運転以外のことを考え注意力が偏ると、安全確認が疎かになります。



「超回復」

指導課長 米山 武彦

夏休みは、自分のキャリアに合わせて学び直すよい機会である。「行かされる研修」よりも「自分の意志で行く研修」は何倍もの価値がある。常に学び続ける教師でありたい。とは言っても仕事のことばかりを考えるのが良いことではない。筋力トレーニングに「超回復」という現象がある。トレーニングをして負荷がかかった場合、適切に休養と栄養を与えることで、トレーニングの前よりも筋力がアップする「超回復」が起こる。仕事も同様に休養と教養が大切である。ゆっくりと休む時は休み、研修をする時は研修する。質の良い「休み」、質の良い「学び」が重要であると思う。週休二日制の生みの親である松下幸之助（当時の松下電器産業の創業者）が遺した「1日は休養、1日は教養」の概念に通じる。夏休みは「超回復」の絶好の機会である。



平成27年版自殺対策白書から抜粋(過去約40年間の厚生労働省「人口動態調査」の調査票から内閣府が独自集計)

長期休業明け直後は、児童生徒にとって生活環境が大きく変わる契機になりやすく大きなプレッシャーや精神的動揺が生じやすいと考えられます。このような時期に着目し、変化を把握し、学校や地域、あるいは家庭において、児童生徒への見守りの強化や、児童生徒向けの相談や講演等の対応を集中的に行うことが大切です。

夏季休業中における学習の充実に向けて

長い夏休み、児童生徒が健康で安全な生活を送るとともに、学習における自分自身の目的や課題、興味・関心を基に、計画的かつ継続的な学習に取り組めるよう具体的な指導をお願いします。



どんな学習ができるのか？

- 作文や研究、図画工作など長期の休みを使って、計画的にじっくりと時間をかけて取り組み、完成させることのよさが実感できる学習
- 1学期の授業で、「分からなかった」「できなかった」「あともう少し考えたい」「確実に解けるようになりたい」など、子供が自分で考え、理解が不十分や確実な定着が必要と感じている内容について、自分で学習計画を立て、継続的に取り組み、「分かった・できるようになった」と実感できる学習



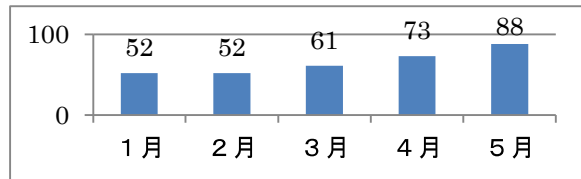
どんな力が身に付くのか？

- 見通しをもち、自分で計画し、根気強く取り組む力
- 経過や過程、結果をもとに見直したり修正したりする力
- 作品作りや学習課題解決に取り組むことで、物作りの技能やよりよい作品にするための思考力や表現力、判断力
- 計画しやり遂げることで、より高い目標を立てる力

長い長い夏休み、子供たちのやる気を起こす先生方の声かけで、充実した楽しい夏休みにしてください！

～悲しい事件(事故)に子供たちが遭わないために～
1 不審者対応

- 声かけ、つきまとい等事案月別発生状況(件)



(鹿児島県警調べ：県全体～5月末現在)

本年度は、県内外で不審者による事件が多く発生しています。南薩地区においても声かけ、つきまといの事案が連続して発生しており注意が必要です。長期休業前には、子供たちに対し、不審者に遭遇した際の対処等について、改めて具体的な指導をお願いします。また、家庭、地域、関係機関等と十分な連携を図り、地域ぐるみによる安全確保体制の一層の強化をお願いします。

2 交通事故防止、水難事故防止

- (1) 交通事故0月間強調期間におけるスローガン
 - 幼児・児童の道路への飛び出し防止
～横断はしっかりよく見てたしかめて～
 - 自転車運転のルール遵守とマナー向上
～保険に加入し、ヘルメットをかぶろう～
- (2) 水難事故防止強調期間におけるスローガン
 - 「水に親しみながら3M運動
みんなでめざそう水の事故ゼロ」

南薩地区子ども会大会、育成者・指導者研修会



【子ども会表彰】



【活動発表】



【ふれあい活動】



【講演会】

6月15日(土)南さつま市の坊津学園で地区子ども会大会、育成者・指導者研修会が開催されました。当日は、地区内から417人という多くの子ども会会員や育成者・指導者が参加し、盛大に開催されました。

子ども会大会では、地区子ども会表彰や各市の代表の子ども会の活動発表、子どもふれあい活動が行われました。子どもふれあい活動では、体育館に設けられたレクリエーションコーナーでランドリーピンチやいご手玉、マンカラなどのいろいろな遊びを楽しみました。子供たちは、遊びをとおしてふれあいの輪を広げ、交流を図りました。

育成者・指導者研修会では、MBC南日本パーソナリティーよし侯とよしげ氏に、「どうせ一度の人生さ！生きてるだけでまるもうけ！」と題して講演していただきました。元気をもらう有意義な機会となりました。